

**女性にとって働きやすい労働環境への「変化」、感じているのはわずか約2割
- 女性の働き方に関する調査 -**

[URL:http://research.rakuten.co.jp/report/20141201/](http://research.rakuten.co.jp/report/20141201/)

楽天リサーチ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：森 学、以下「楽天リサーチ」）は、女性の働き方に関するインターネット調査を実施しました。今回の調査は、2014年11月13日（木）から14日（金）の2日間、楽天リサーチに登録しているモニター（約230万人）の中から、全国の20代～60代の男女1,000人を対象に行いました。

■ □ 調査結果概要 □ ■

■日本が将来女性にとって働きやすい環境になっていく「変化」を現在感じているのは全体のわずか約2割

日本が将来女性にとって働きやすい環境になっていく「変化」を現在感じているか聞いたところ、4割以上が「感じていない（41.3%）」という回答になった。「どちらとも言えない」が約3割（36.2%）、「感じている」が全体のわずか約2割（22.5%）という結果になった。

変化を感じている人はどのような点についてそのように思うのだろうか。前問で、「感じている」と回答された人に一番変化を感じていることを聞いたところ、「育児休暇からの円滑な職場復帰に向けた支援（20.9%）」が最も多く、つづいて、「女性管理職の登用の増加（20.4%）」、「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系の柔軟性（11.6%）」となった。

回答の男女比較では、当事者の女性の方が変化を「感じていない（46.4%）」割合が、男性（36.2%）より10.2ポイント高く、男女間において意識の違いがあることがわかった。

また、結婚や育児といった人生のライフステージを迎える機会が多い20代・30代・40代の女性（平均52.0%）が、他の性別年代（平均36.7%）と比べ平均して15.3ポイント、その変化を感じていないことが明らかになった。一方、60代男性の4割近く（38.0%）は変化を感じており、具体的には、「育児休暇からの円滑な職場復帰に向けた支援」が最も多い回答となった。

■男性が考える女性が働きにくい理由は「業務内容」。女性にとっては「人間関係」が一番のネック

現在勤めている職場が「女性にとって『働きにくい』と思うか」を男女ともに聞いたところ、「働きにくい/働きにくそう」といった回答の割合は22.3%となり、逆に約半数（48.2%）が「働きやすい/働きやすそう」と答えた。

また、「働きにくい/働きにくそう」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「業務内容への不満（15.9%）」が最も多く、つづいて、「職場での人間関係への不満（11.5%）」、「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系が柔軟ではない（10.8%）」という結果になった。

ここで、現在勤めている会社が「働きやすい/働きやすそう」と考えている割合の男女差を見ると、女性の方が高く（52.8%）、男性（45.1%）と比較して7.7ポイントの差が出た。

「働きにくい/働きにくそう」と回答した理由に関しては、「職場での人間関係への不満」、「同僚の理解・協力が少ない」の項目では、男性と比較して女性が多く、一方男性では、「業務内容への不満」、「女性管理職の登用が少ない」、「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系が柔軟ではない」が多く、男女間に差があることが判明した。働きやすさにおいて、男性は、業務内容や積極的に働ける環境づくりが重要だと考えているが、女性は、何より人間関係を重要視していることが伺える。

■女性が職場で活躍するために最も重要なのは、男性は「業務内容」と考えるが、女性は「勤務体系」

女性が職場で活躍し続けるために最も重要だと思うことを男女ともに聞いたところ、「育児休暇からの円滑な職場復帰に向けた支援（16.1%）」と回答した人が最も多かった。つづいて、「職場での人間関係（14.2%）」、「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系の柔軟性（13.7%）」と回答した人が多かった。

ここで、女性が職場で活躍するために必要なことに関する男女間の差を見ると、女性は「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系の柔軟性（19.4%）」の割合が最も高いが、男性は8.0%と、11.4ポイント低かった。一方、「業務内容」の割合は、男性が12.4%と、女性より4.6ポイント高い結果になった。

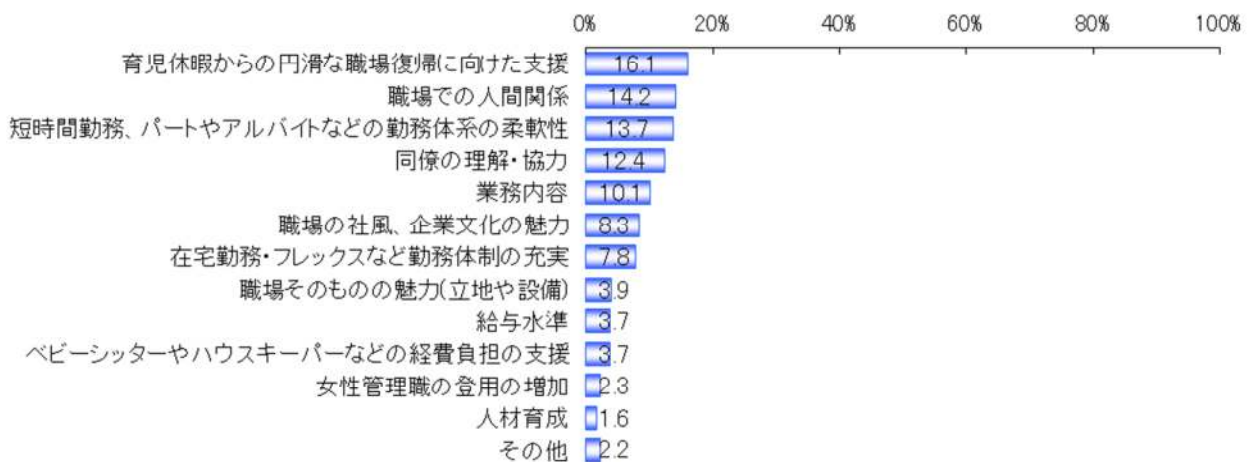
特に20代、30代の女性にとっては、「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系の柔軟性」や「育児休暇からの円滑な職場復帰に向けた支援」が重要であり、20代、30代の男性にとっては、「育児休暇からの円滑な職場復帰に向けた支援」といった勤務体系や、サポート体制が重要だと考えていることがわかった。

■□ 調査結果 □■

■女性が職場で活躍し続けるために最も重要なのは「職場復帰に向けた支援」

本調査対象となる20歳～69歳の男女に、女性が職場で活躍し続けるために最も重要だと思うことを聞いたところ、「育児休暇からの円滑な職場復帰に向けた支援（16.1%）」と回答した人が最も多かった。つづいて、「職場での人間関係（14.2%）」、「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系の柔軟性（13.7%）」と回答した人が多かった。

◇女性が職場で活躍し続けるために最も重要なこと（n=1000） 単位：%



■女性が職場で活躍するために最も重要なのは、男性は「業務内容」と考えるが、女性は「勤務体系」

ここで女性が職場で活躍するために必要なことに関する男女間の差を見ると、女性は「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系の柔軟性(19.4%)」の割合が最も高いが、男性は8.0%と、11.4ポイント低かった。一方、「業務内容」の割合は、男性が12.4%と、女性より4.6ポイント高い結果になった。

特に20代、30代の女性にとっては、「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系の柔軟性」や「育児休暇からの円滑な職場復帰に向けた支援」が重要であり、20代、30代の男性にとっては、「育児休暇からの円滑な職場復帰に向けた支援」が重要だと考えていることがわかった。

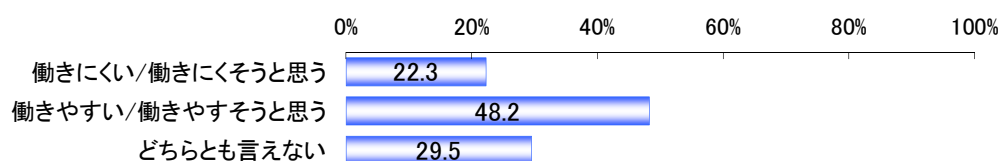
◇女性が職場で活躍し続けるために最も重要なこと（全体：n=1000、男性：n=500、女性：n=500） 単位：%

	n	職場育児休暇からの円滑な支援	職場での人間関係	体系的柔軟性	短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務	同僚の理解・協力	業務内容	職場の社風、企業文化の魅力	在宅勤務・フレックスなど勤務体制の充実	職場そのものの魅力（立地や設備）	給与水準	負担の支援	ベビシッターやハウスキーパーなどの経費	女性管理職の登用の増加	人材育成	その他
全体	1000	16.1	14.2	13.7	12.4	10.1	8.3	7.8	3.9	3.7	3.7	2.3	1.6	2.2		
性別																
男性	500	17.4	13.6	8.0	12.0	12.4	9.8	8.0	4.2	4.2	4.0	1.8	2.2	2.4		
女性	500	14.8	14.8	19.4	12.8	7.8	6.8	7.6	3.6	3.2	3.4	2.8	1.0	2.0		
性年代																
男性 20代	100	20.0	19.0	8.0	10.0	8.0	7.0	7.0	1.0	8.0	5.0	2.0	1.0	4.0		
男性 30代	100	23.0	13.0	2.0	13.0	12.0	11.0	6.0	5.0	6.0	4.0	1.0	2.0	2.0		
男性 40代	100	17.0	14.0	7.0	9.0	12.0	10.0	12.0	5.0	1.0	4.0	3.0	3.0	3.0		
男性 50代	100	10.0	11.0	12.0	14.0	21.0	7.0	6.0	4.0	4.0	3.0	3.0	3.0	2.0		
男性 60代	100	17.0	11.0	11.0	14.0	9.0	14.0	9.0	6.0	2.0	4.0	0.0	2.0	1.0		
女性 20代	100	20.0	18.0	19.0	9.0	8.0	6.0	7.0	2.0	2.0	4.0	3.0	0.0	2.0		
女性 30代	100	20.0	8.0	22.0	15.0	6.0	10.0	6.0	5.0	3.0	3.0	1.0	1.0	0.0		
女性 40代	100	6.0	14.0	23.0	17.0	7.0	6.0	10.0	6.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0		
女性 50代	100	12.0	19.0	22.0	13.0	10.0	3.0	6.0	2.0	3.0	4.0	3.0	1.0	2.0		
女性 60代	100	16.0	15.0	11.0	10.0	8.0	9.0	9.0	3.0	5.0	5.0	4.0	0.0	5.0		

■女性にとって「働きにくい/働きにくそう」な理由は、「業務内容への不満」がトップ

現在勤めている職場が「女性にとって『働きにくい』と思うか」を男女ともに聞いたところ、22.3%が「働きにくい/働きにくそう」と答え、逆に約半数（48.2%）が「働きやすい/働きやすそう」と答えた。

◇現在勤めている会社は女性にとって「働きにくい」と思うか（n=705） 単位：%



また、「働きにくい/働きにくそう」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「業務内容への不満（15.9%）」が最も多く、つづいて、「職場での人間関係への不満（11.5%）」、「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系が柔軟ではない（10.8%）」という結果になった。

◇現在勤めている会社が「働きにくい/働きにくそう」と考える理由 (n=157) 単位：%

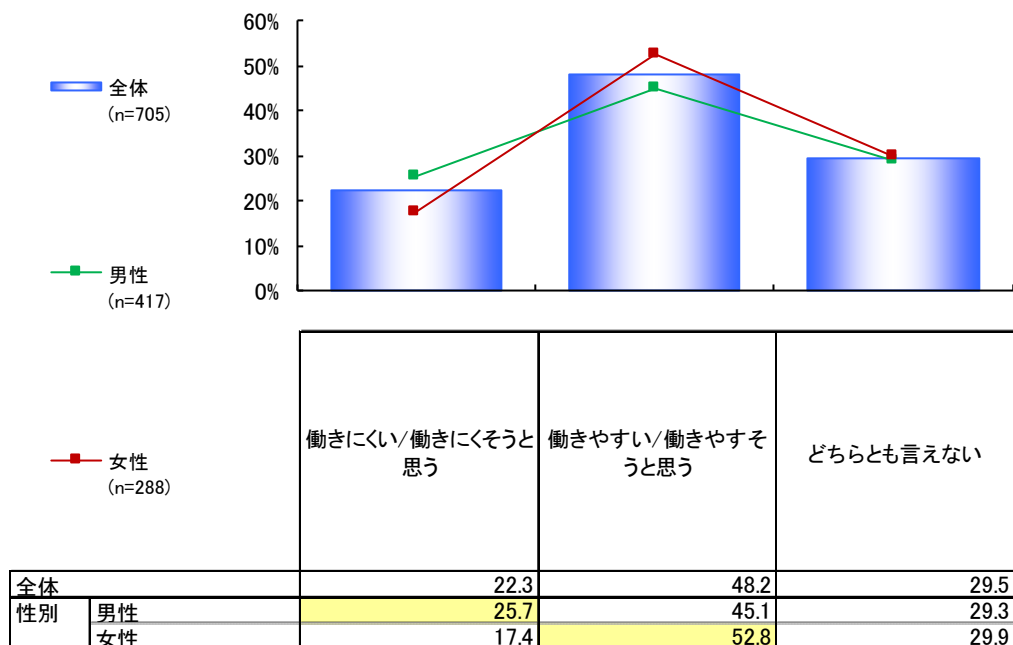


■男性が考える女性が働きにくい理由は「業務内容」。女性にとっては「人間関係」が一番のネック

ここで、現在勤めている会社が「働きやすい /働きやすそう」と考えている割合の男女差を見ると、女性の方が高く(52.8%)、男性(45.1%)と比較して7.7ポイントの差が出た。

◇現在勤めている会社は女性にとって「働きにくい」と思うか

(全体：n=705、男性：n=417、女性：n=288) 単位：%

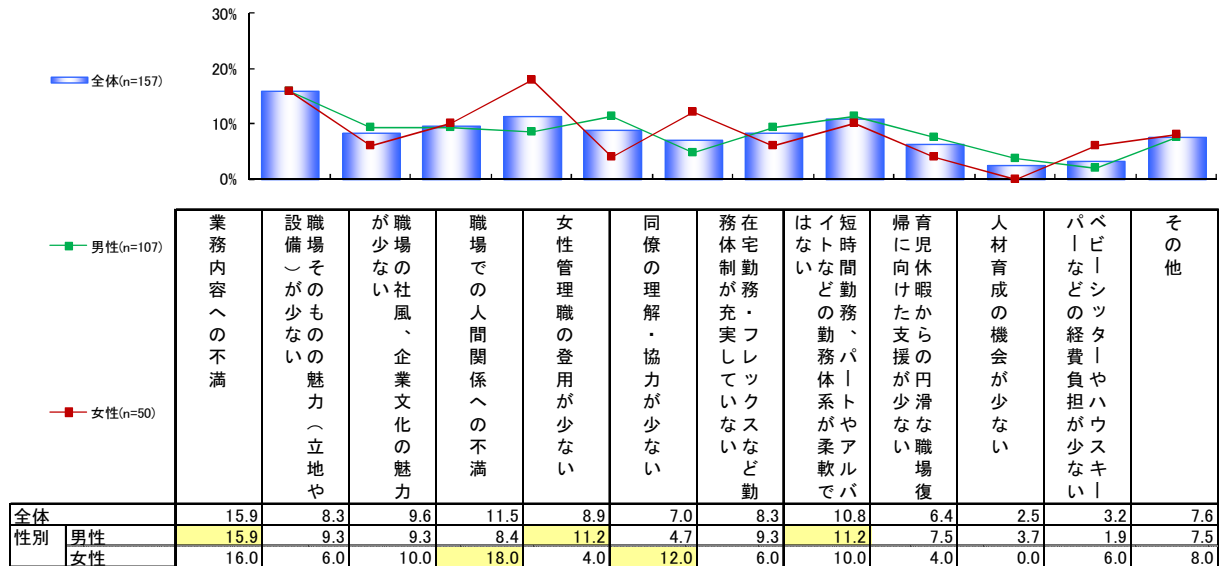


「働きにくい/働きにくそう」と回答した理由に関しては、「職場での人間関係への不満」、「同僚の理解・協力が少ない」の項目では、男性と比較して女性が多く、一方男性では、「業務内容への不満」、「女性管理職の登用が少ない」、「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系が柔軟ではない」が多く、男女間に差があることが判明した。働きやすさにおいて、男性は、業務内

容や積極的に働ける環境づくりが重要だと考えているが、女性は、何より人間関係を重要視していることが伺える。

◇現在勤めている会社が「働きにくい/働きにくそう」と最も考える理由 (全体：n = 157、男性：

n = 107、女性：n = 50) 単位：%

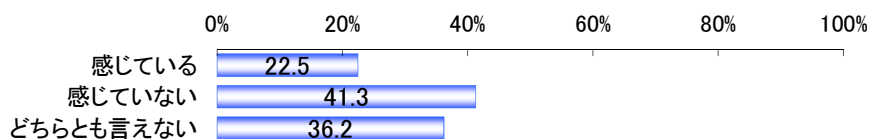


■日本が将来女性にとって働きやすい環境になっていく「変化」を現在感じているのは全体のわずか約2割

つづいて、全員に、日本が将来女性にとって働きやすい環境になっていく「変化」を現在感じているか聞いたところ、4割以上が「感じていない (41.3%)」という回答になった。「どちらとも言えない」が約3割 (36.2%)、「感じている」が全体のわずか約2割 (22.5%) という結果になった。

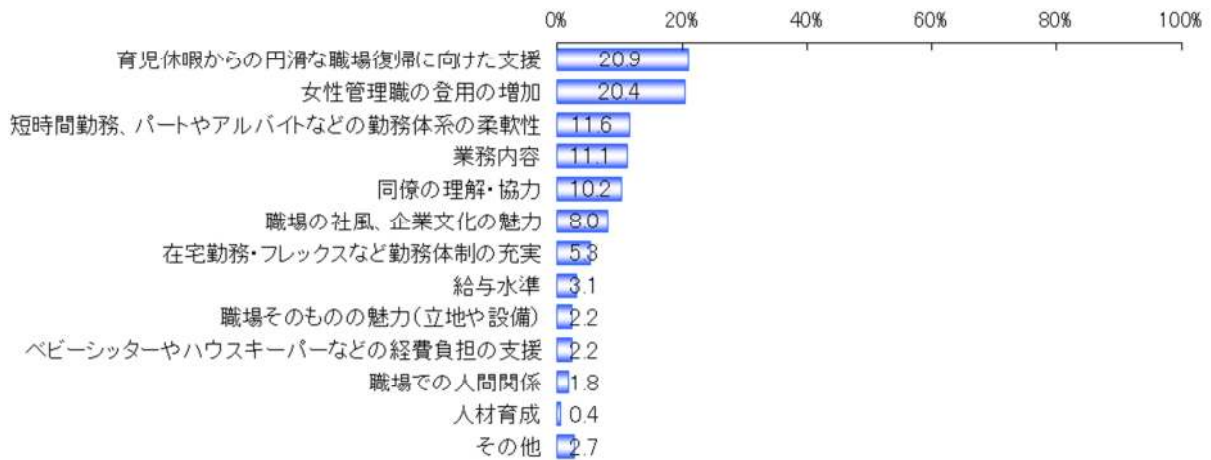
◇日本国内が将来女性にとって働きやすい環境になっていくという「変化」を現在感じている

か (n = 1,000) 単位：%



変化を感じている人はどのような点についてそのように思うのだろうか。前問で、「感じている」と回答された人に一番変化を感じていることを聞いたところ、「育児休暇からの円滑な職場復帰に向けた支援 (20.9%)」が最も多く、つづいて、「女性管理職の登用の増加 (20.4%)」、「短時間勤務、パートやアルバイトなどの勤務体系の柔軟性 (11.6%)」となった。

◇一番変化を感じていること (n=225) 単位：%

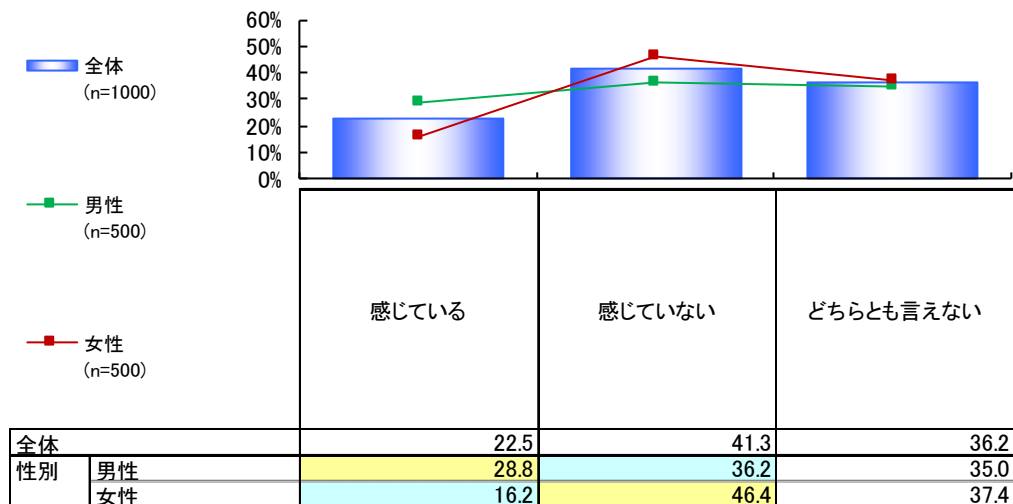


■日本国内が将来女性にとって働きやすい環境になっていくという「変化」を現在感じているのは、女性より男性の方が多い

回答の男女比較では、当事者の女性の方が変化を「感じていない(46.4%)」割合が、男性(36.2%)より10.2ポイント高く、男女間において意識の違いがあることがわかった。

また、結婚や育児といった人生のライフステージを迎える機会が多い20代・30代・40代の女性(平均52.0%)が、他の性別年代(平均36.7%)と比べ平均して15.3ポイント、その変化を感じていないことが明らかになった。一方、60代男性の4割近く(38.0%)は変化を感じており、具体的には、「育児休暇からの円滑な職場復帰に向けた支援」が最も多い回答となった。

◇日本国内が将来女性にとって働きやすい環境になっていくという「変化」を現在感じているか (全体：n=1000、男性：n=500、女性：n=500) 単位：%



		感じている	感じていない	どちらとも言えない
性年代	男性 20代	23.0	39.0	38.0
	男性 30代	27.0	39.0	34.0
	男性 40代	28.0	31.0	41.0
	男性 50代	28.0	40.0	32.0
	男性 60代	38.0	32.0	30.0
	女性 20代	14.0	53.0	33.0
	女性 30代	10.0	56.0	34.0
	女性 40代	14.0	47.0	39.0
	女性 50代	26.0	40.0	34.0
女性 60代	17.0	36.0	47.0	

◇一番変化を感じている点 (n=225) 単位：%

		業務内容	職場そのものの魅力 (立地や設備)	職場の社風、企業文化 の魅力	給与水準	職場での人間関係	加女性管理職の登用の増	同僚の理解・協力	在宅勤務・フレックス など勤務体制の充実	体系的柔軟性 の柔軟性	短時間勤務、パート などの勤務	育児休暇からの円滑な 職場復帰に向けた支援	人材育成	ベビーシッターやハウ スキーパーなどの経費 負担の支援	その他
性年代	男性 20代	8.7	4.3	0.0	0.0	4.3	34.8	8.7	8.7	4.3	21.7	0.0	4.3	0.0	
	男性 30代	7.4	0.0	7.4	0.0	0.0	33.3	11.1	3.7	22.2	7.4	0.0	7.4	0.0	
	男性 40代	7.1	3.6	17.9	3.6	3.6	10.7	17.9	10.7	7.1	14.3	0.0	0.0	3.6	
	男性 50代	21.4	0.0	10.7	3.6	0.0	21.4	10.7	3.6	7.1	17.9	0.0	0.0	3.6	
	男性 60代	21.1	2.6	7.9	2.6	0.0	10.5	2.6	7.9	13.2	23.7	2.6	0.0	5.3	
	女性 20代	7.1	7.1	21.4	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	21.4	21.4	0.0	0.0	0.0	
	女性 30代	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	30.0	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	
	女性 40代	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	
	女性 50代	3.8	0.0	3.8	7.7	3.8	38.5	7.7	0.0	3.8	23.1	0.0	0.0	7.7	
女性 60代	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	11.8	11.8	11.8	5.9	47.1	0.0	0.0	0.0		

■出産後、相手も自身も「今の勤め先で、仕事を続けたい(続けてもらいたい)」

出産後、育児に専念するより、女性に働いてほしいと考えている男性の方が多い結果に

女性に出産後のタイミングでご自身の働き方をどう考えているか聞いてみた。「今の勤め先で、仕事を続けたい(27.6%)」が最も多い結果となった。

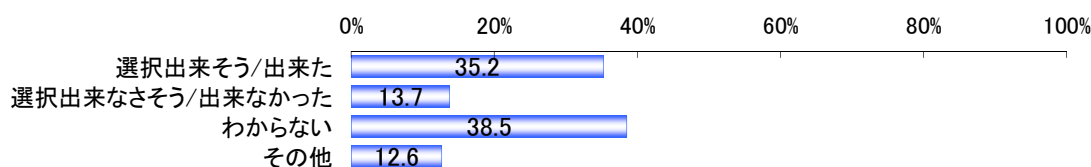
◇出産後のご自身の働き方について (n=500) 単位：%



また、前問で希望した項目を実際に選択が可能かどうかという点については、「わからない (38.5%)」が最も多かったが、「選択出来そう/出来た」という回答も35.2%あった。

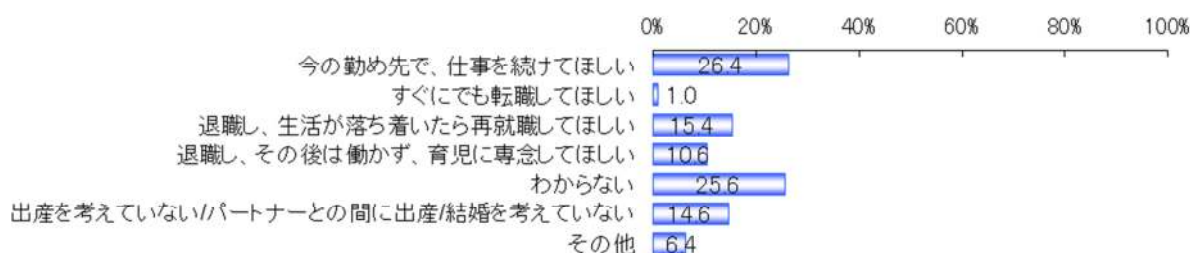
◇女性にとって、出産後に希望する自身の働き方が現実として選択出来そう/出来たか

(n=460) 単位：%



つづいて、「パートナー/将来のパートナー」の出産のタイミングで、男性が「パートナー/将来のパートナー」の働き方について、どう考えているかを聞いたところ、「退職し、その後は働かず、育児に専念してほしい(10.6%)」より「今の勤め先で、仕事を続けてほしい(26.4%)」、「退職し、生活が落ち着いたら再就職してほしい(15.4%)」の割合が高く、出産後も女性に働いてほしいと考えている男性の方が多いことが判明した。

◇男性にとって、出産後のパートナーの働き方について (n=500) 単位：%



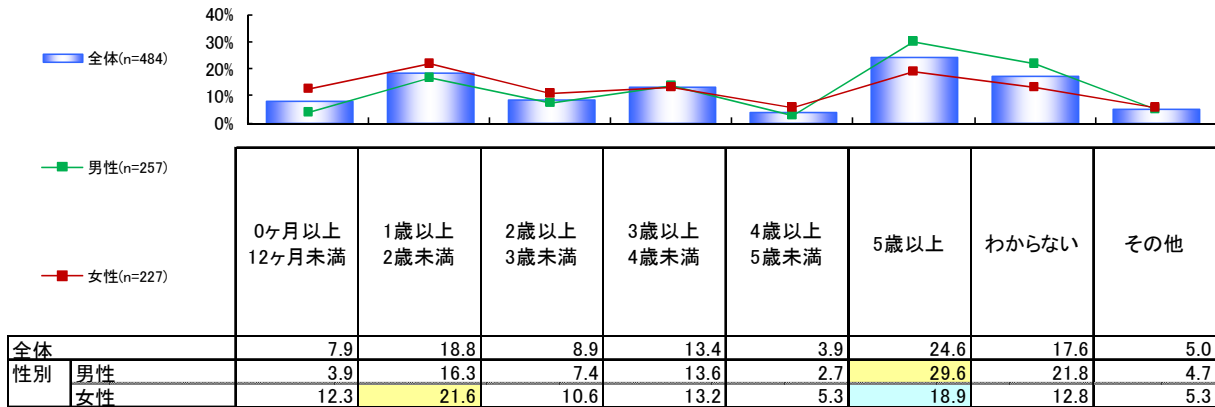
■出産後の復帰時期については、男女間にずれ

女性は、子どもが「1歳以上2歳未満」で働き始めたいと考えている人が多いのに対し、男性は「5歳以上」で働き始めてほしいと考える人が多い

出産後に働く意思のある人に、子どもが何歳ごろ復帰/再就職したい(してもらいたい)か聞いたところ、男性は、「5歳以上 (29.6%)」が最も高く、女性は「1歳以上2歳未満 (21.6%)」が最

も多い結果になった。復帰まで2年以上のブランクが空くことを、女性は慎重にとらえている様子が伺える。

◇出産後の復帰時期について（全体：n=484、男性：n=257、女性：n=227） 単位：%



■男性社員に対する短時間勤務はまだ後向きな意見が多い

短時間勤務を選択する女性社員/男性社員についての意見を聞いたところ、「短時間勤務を選択する女性社員」に対しては、「積極的に制度を活用すべきだ (40.7%)」という回答が多かった。また、「短時間勤務を選択する男性社員」に対しては、「他の社員に負担はかかるが、許容できる (28.9%)」が最も多い結果となった。女性に比べて男性では「他の社員に負担がかかるので、とらないでほしい」という項目が9.7ポイント高かったことから、ワーキングファザーの短時間勤務に対しては、ワーキングマザーと比較すると、まだ理解が進んでいない現状が明らかとなった。

◇短時間勤務を選択する女性社員/男性社員について（n=1,000） 単位：%

	積極的に 制度を 活用す	他の 社員に 許容で 負担は かか	他の 社員に 負担が かか	わか らな い	そ の 他	自 分 に は 関 係 な い
短時間勤務を選択する男性社員	25.1	28.9	14.0	19.9	1.2	10.9
短時間勤務を選択する女性社員	40.7	28.9	4.3	14.4	1.1	10.6

【調査概要】

調査エリア : 全国
 調査対象者 : 20歳～69歳 男女
 回収サンプル数 : 1,000サンプル

調査期間 : 2014年11月13日から11月14日
調査実施機関 : 楽天リサーチ株式会社

以上